

# 本当に安全なものなのか慎重に考える必要があります。

## 今年秋からの新型コロナウイルスワクチン定期接種

対象者は65歳以上の方及び60～64歳で一定の基礎疾患を有する方（自己負担額3,200円）とされています。また、接種を実施する医療機関では任意接種（全額負担で接種をしたいと思われる方）も行われると予測します。6月議会の時点では、ワクチンの製造販売会社や種類は、まだはっきりとせず治験中のものもある状況です。新規開発されたレプリコンワクチンは、世界ではモルモットになりたくないと言って断っているもので、日本でしか接種されないとされています。

## 感染予防効果、重症予防効果のデータはなく審査中と国会で回答

海外では、3回以上接種が進んでいるところはなく、ワクチンと死亡者との因果関係があるとして調査が開始されています。副反応疑い報告や健康被害救済制度の申請状況については、接種回数からすると少数のように国や市は発信していますが、接種後の副反応疑いは報告があげられていない方が実際に多くいらっしゃいます。また、インフルエンザワクチンとの同時接種もできると説明がありますが、同時接種で亡くなっている方もいらっしゃいます。

この現状は…

**市は把握できていることですが、市民のみなさんには情報が届きません。**

## 感染予防はそもそも疑わしいのでは？

ワクチンによる集団免疫について厚労省の説明は『感染予防のためとは、接種した人が感染しないことだが、感染予防効果は実証しにくく、臨床試験で確認することは稀。集団免疫効果はこれまで実証されていない。（一部抜粋）』とHPに示しています。

## 新型コロナワクチンだけじゃない！

子どもが生まれてから数多くのワクチン接種案内があります。HPVワクチンもその一つ…

## 2022年4月から、HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)の勧奨再開

### 《重篤な副反応に苦しんでいる全国の被害者を置き去りにした再開》

HPVワクチンの副反応症状の特徴は、頭痛、全身の疼痛、知覚過敏、脱力、不随意運動、歩行障害、激しい倦怠感、睡眠障害、記憶障害、学習障害など、多様な症状が一人の方に重複して出ること、そして、接種から時間が経った後に症状が出てくることも少なくない状況です。根本的治療法は確立しておらず、国が指定した協力医療機関を受診しても適切な治療を受けられなかったという声も届いています。



HPVワクチン薬害訴訟全国弁護団 HP ↑



「HPVワクチンのほんとうのこと」わたしたちの健康と未来を返して!!

被害者の魂の叫びと題したHPVワクチン薬害訴訟を支える会・大分が発行している本を紹介します。（2024年3月29日 第1刷発行 定価1,000円）

この本に掲載されている大熊由紀子さんの「新聞もテレビも報じない子宮頸がんワクチンの本当の話」のページを抜粋して紹介します。

- 子宮頸がんは、がんになる前に検診で見える。
  - 子宮頸がんのウイルスは空気感染などしない。
  - 他の薬害とは後遺症の現れ方が大きく違う。ゆきえにしネット→
- 副反応は、4種混合・風疹・日本脳炎の10倍にのぼる。  
薬害の被害者が幸せをもぎ取られていく構造。



**被害者の叫びは「副反応のことを知っていたら接種しなかった。治療法を見つけてほしい！」です。**